

2ページに掲載された記事と合わせてお読みください。

ともすれば総花的になりがちです。私の思うところを自分なりの表現で解説させていただきます。

鳥羽の存続のために

移住定住に本格的に取り組んで2年目、自治体としては後発ではありますが徐々に成果も出ています。よく住んでよし訪れてよしと言われるように、移住を考えている人たちの総合的な満足度が上がるよう、さらに注力していきます。

また主要産業である観光・漁業の持続的な発展のためにも、今私たちが享受している山・川・海の景観を含めた自然環境を大切にしていきます。

みんなの命を守るために

歩道整備や道路の拡幅、河川や海岸堤防の整備など、国や県と連携を取りながら着実に進めます。

元氣いっぱいのもちづくりのために

漁協と観光協会と市が手を取り合い、スタートした漁業と観光の連携事業も4年目になります。

400万人の人が訪れる観光地と県下有数の水産業が同居しながらもつと相乗効果があつて然るべしと誰しもが思うところではないでしょうか。成果はもちろん、その取り組みの過程からも全国的に注目の事業です。

たくさん観光客を迎え入れるために

まちをきれいにすればそれだけで観光地としての質は確実に向上します。この鳥羽を訪れる人の期待に応えられる景観づくりを進めます。

また、まだまだ伊勢志摩サミットの効果が残っていると感じています。世界へ向けてあれだけの発信があつたサミットの効果をもう一度つかみなおします。

地域の宝である子どもたちのために

「自分は大切な存在、価値ある存在だ」などと、自らの価値や存在意義を肯定できる感情を育んでいきたいと思えます。ひいては自分たちが住むまちを誇りに思う「鳥羽肯定感」につながります。

頼れる市役所にするために

コミュニケーション能力を高

め、市民の声を的確に受け止められることをまず基本的なスキルとして高めていきます。

鳥羽には他のまちにはない観光素材をはじめ、離島を含め各集落ごとに様々な文化や歴史がちりばめられているのは皆さんも同じ認識ではないでしょうか。

私はそれら、鳥羽にあるもの、すでに私たちの手の中にあるモノをこれまで以上に活かしていきたいと思っています。

大きさにこだわらず、小さくてもいいから市内にまんべんなくたくさんのお花を咲かせたいと思っています。

「リノベーション」は単に直すだけではなく、今までにはなかったプラスアルファの新しい価値を生み出す、というものです。

そのために今までは違った観点・切り口で、外の人の目線で鳥羽のまちを眺めてみることが必要です。

今までのことを継続しつつ、これまで当たり前のこととしてきたことをちょっと違った視点で考える。いつもと違った組み合わせでやってみる。モノ・人・ことがいっぱいの鳥羽にはその組み合わせ方は無限なのです。



Vol.161

市民課人権・生活係 ☎ 1126

平和について考えよう ～繋いでいくこと～

私の祖母は、7人兄弟の4番目でしたが、いわゆる跡取り娘でした。小さい頃、お盆に祖母の家へ遊びに行き、風の通る座敷で寝転がっていると、鴨居のあたりに飾られた

白黒の写真の中の人物と目が合いました。写真に写っている人は、私の父にとっても似ているのですが、凛々しい顔つきながら、どこか寂しそうな表情をしていました。

なんとなく怖くなった私は、そのまま昼寝する気にもなれず、祖母に「あの人は誰？」と聞いてみました。

すると、「戦争でのおなつた(亡くなった)兄貴や」と教えてくれました。続けて近くにいた母親が、「あの人がおつてくれたから、今あんたはこうやって暮らせとるん

や。先祖さんに感謝せなあかん」と話してくれました。

その話を聞いた後、もう一度座敷へ行って寝転んでみました。すると、さっきまで「怖い」と感じていた写真が、今度は不思議と「守られている」と感じるようになっていたことを覚えています。

それ以降、祖母の家の座敷は私にとって特別な部屋になり、たまに一人で寝転がっては、心の中で「ありがとうございませう」とつぶやくようになりました。

戦後70年、日本は武力行使や戦闘行為を一切行っていないません。これは、戦争で犠牲になつたかたがたの「子どもや孫を戦地に送つてはならない」といった想いや願いが結集された結果だと思っています。私たちには、この先人の想いや願いを引き継ぎ、戦争のない平和な世の中を次の世代へ繋いでいく役目が課せられています。

